

- | | |
|---------------------|----------------|
| 01. 俺たちのサーカス | 14. 歌うたいのバラッド |
| 02. 僕が見たビートルズはTVの中 | 15. 小さな夜 |
| 03. 進めなまけもの | 16. ずっと好きだった |
| 04. やわらかな日 | 17. I Love Me |
| 05. 朝焼け | 18. 明日大好きな |
| 06. シグナル | ロックンロールバンドが |
| 07. BAD TIME BLUES | この街にやってくるんだ |
| 08. ウサギとカメ | 19. Boy |
| 09. 男と女 | ENCORE |
| 10. 五秒の再会 | 01. 猫の毛 |
| 11. Over the Season | 02. 100年サンシャイン |
| 12. 泣いてたまるか | 03. Endless |
| 13. 世界中の海の水 | 04. 空に星が綺麗 |

LIVE REPORT

11/12 sat. 広島文化学園 HBG ホール

斉藤和義

そうだ。これだ。
これが斉藤和義の音楽の力だ

この日のラストナンバーの演奏が終わり、観客の興奮が伝わってくる大きな拍手の中で私は、体は熱くなっているのに、何故か力が入らない不思議な感覚に包まれていた。きっと斉藤和義のロックンロールに心がさらわれてしまったのだと思う。

2022年11月12日(土)、広島文化学園 HBG ホール。開演前の会場内は、購入したグッズや真っ暗なステージをじっと見つめる人で溢れ、開演を待ち望むソワソワした空気が充満していた。BGMが止まると、斉藤和義がギターを鳴らしながら登場。観客は一斉に立ち上がり、すぐさま全力で拍手を送る。会場の温度が一瞬にして上昇したようだった。「ヘイ！ 広島ー！」。観客の拍手に返事をするとハーモニカに口をつけ、オープニングナンバー『俺たちのサーカス』で会場を沸かせる。その勢いそのまま2曲目は『僕が見たビートルズはTVの中』。会場全員がステージに釘付けだった。演奏後の拍手が鳴り止まないうちに「イエーイ。上白石萌音です」とお決まりの一言。「今日も陽気にラーメンを食べてきましたー。あと弾き語りで1人ぼっちなんで、あんまりこっちは

かり見ないようにお願いしますね」と彼らしいクールい口調とジョークで会場は朗らかな空気に。

ステージ上は、楽器と椅子のみの非常にシンプルなものだったが、背後に大きなスクリーンが設置されており、曲に合わせて映し出される映像も印象的だった。5曲目に演奏された『朝焼け』では、フィルムカメラで撮影された風景が次々に映し出され、歌声がより一層、心に溶け込んでくる時間になった。アコースティックギターで刻まれるリズムに誘われ、観客の拍手が力強くなる中、次に演奏されたのは『シグナル』。会場のボルテージをまたひとつ上げたかと思うと、続けてロックモード全開のジャキジャキとしたギターの音で『BAD TIME BLUES』が炸裂。そして、この日2回目のMC。「今日はスクリーンがあるので、皆さんに見てほしいものがある」と合図を送ると、そこに映し出されたのは大量の“招き猫”。少し前にマイブームだったという招き猫集め。招き猫の表情やポーズの違いを「かわいいですよええ」などと感想を添えながら約10分、プレゼンター斉藤和義による解説が行われた。この自由度も、ステージ上にたった1人だけの“弾き語りライブ”の魅力である。

MC明けは、『男と女』『五秒の再会』をギターとリズムマシンの音で、リズムカルに演奏。その後の『Over the Season』は、原曲とは違うピアノアレンジで披露。より温かみを感じるアレンジとなっていて、多くのファンが胸に手を当て、全身で受け止めていた。続いて届けてくれたのは、まだレコーディング前だという新曲『泣いてたまるか』。希望と期待、そしてやさしさが詰め込まれた斉藤和義らしい1曲であった。この2曲で会場全体の空気を穏やかなものに変えると、さらに『世界中の海の水』『歌うたいのバラッド』が続く。「いつまでもこの空気の中に居たい」——そう感じたのは、私だけではないはずである。そして本編のラスト4曲。それはまさに「This is ロックンロール」そう言い切れる時間だった。自作の工



レキギターで披露された『ずっと好きだった』を皮切りに、『I Love Me』『明日大好きなロックンロールバンドがこの街にやってくるんだ』と畳み掛ける。観客も今日一番の大きな拍手を送り、それに共鳴するように斉藤和義のギターも激しくなる。会場のボルテージは上がり続け、ラストナンバー『Boy』でピークを迎え、本編終了。アンコールでは広島のみ“オタフクソース”の100周年記念ソング『100年サンシャイン』が初披露され、素敵な夜がさらに特別なものとなった。

斉藤和義から生み出される音楽の説得力を改めて実感し、この時代を生きられていることに感謝したいと素直に思える夜だった。きっとこれからも、この日の感動を思い出すたび、彼が鳴らすロックンロールに心をさらわれる感覚に包まれるのだろう。

22nd Album 『PINEAPPLE』
4.12 out!!



KAZUYOSHI SAITO LIVE TOUR 2023
“PINEAPPLE EXPRESS”
～明日大好きなロックンロールバンドがこの街にやってくるんだ～
5月30日(火) 広島文化学園 HBG ホール
6月01日(木) 岡山市市民会館
7月26日(水) 石炭文化ホール
7月27日(木) KDDI 維新ホール
7月29日(土) ふくやま芸術文化ホールリーデンローズ大ホール
7月30日(日) 松山市市民会館 大ホール